

● 警防団令の制定

昭和 14 年（1939）1 月 24 日、「警防団令」が勅令によって制定され、「消防組規則」の制定により編成された消防組は、歴史の幕を閉じ、防護団と統合して、「警防団」となって新たな防空体制の主力として活躍することとなった。

「警防団令」

第 1 条には、「警防団ハ防空、水火消防其ノ他ノ警防ニ従事ス」と定められた。

「警防団令」の施行によって、「入間川消防組」は、「入間川警防団」として組織され、その組織は、団長、副団長、分団長、部長、班長、警防員によって構成され、また、役割分担として、消防部、警報部、燈火官制部、

交通整理部、警護部、防毒部、救護部、避難所管理部、工作部、配給部の 10 部が設けられた。

与えられた役割からもわかるとおり、平時の消防任務から急速に戦時体制の消防組織へと移行して行った。

昭和 16 年（1941）12 月 8 日、太平洋戦争が勃発し、戦争の激化によって、本土空襲による焼夷弾や爆弾が投下され、戦局は日に日に不利となった。

県は訓令を発し警防団の定員を定めるとともに、従来の地区制を機能制に改めるよう指示を出した。そこで、入間川町でも定員を 366 人とし、消防、警備、防護の三部制に改組した。



昭和 14 年頃の警防団

● 戦時下における警防団

当時、戦時下に活躍した水富警防団について「覚書・狭山戦災史」から引用する。

戦時下、水富警防団の組織は、団長小林胸次氏、第1分団長小谷野幸雄氏（広瀬地区）、第2分団長石田真平氏（笹井地区）の2分団で編成をとり、本部を中央の根岸地区に置いた。本部長河井幸吉氏の令下に自動車班、伝令班、また各分団には、消防・警報・管制部の三部で編成され、さらに部ごとに班長が定められた。

当時の出動要請は飯能警察署長から警察専用電話により小林団長へ指令が入り、伝令班は団長の命令をもって両分団の詰所に向かい警備体制を敷いていた。

当地は、入間基地（元陸軍航空士官学校）に隣接している関係もあり、過去にも幾度か機銃掃射や爆弾投下の被害をうけ、空襲があるたびに不安におののいていた。

昭和20年5月25日、警戒警報が発令、第2分団管轄の2ヵ所の火の見櫓で1点鐘、2点鐘が打たれた。サイレンは3分間の連続吹鳴である。空襲警報は1点・4点打、4秒間の断続吹鳴である。2つの火の見櫓とも金属供出の犠牲にあつて、木製の櫓になっていた。

来襲したB29は、一群また一群と焼夷弾を投下しながら帝都上空へ侵入していった。

水富警防団第1分団は団長以下全員が空襲警報発令と同時にポンプ器具置場（上広瀬）に集合した。隣接に警防団専用の防空壕があり、空襲警報が発令されると監視員を残し全員を収容した。

「ドカン・ドカン」と爆発の音がし、壕内

がゆれ部員は色めいた。分団長が壕外に出て四方を見回すと、西方の空が異様に赤い。

「笹井地区に焼夷弾落下、大火災発生」
櫓上の監視員の状況報告である。第1分団長は、まず1号ポンプ出動の命令を下した。部員の半数が1号車と巻車にとびつき、引綱、梶棒、後押しに分かれるとガラガラッと輪金を鳴らして駆けだす。

根岸地区を駆けぬけ行幸道路に車を引き上げると、笹井の中心部と思われるあたりが火の海であった。直ちに、2号ポンプ「天竜号」の出動要請を伝令員に伝え現場へ向かう。

第1分団手押しポンプ2台、エンジン全開の水富警防団本部消防車と入間川警防団第3分団消防車、応援に駆けつけた精明警防団芦荻場分団の龍吐水、飯能警防団から消防車2台により焼夷弾が放つ火に立ち向かった。

「入間川警防団第3分団消防部」は近隣警防団中もっとも精鋭とされていた。同部は、「帝都消防隊」の指定をうけ、戦史に名高い3月10日の東京大空襲をはじめ、前後3回、帝都東京に出動した実績をもっていた。

3月10日 警視庁消防部教務第231号記録には、防衛本部ハ既定計画ニ基キ消防部隊ノ運用ニ全カヲ集中 深川・本所・城東・浅草・向島方面ノ被害甚大ナ区域ニ部隊主力ヲ集中セシメ 管下1129台ノ消防部隊ヲ運用スル外 神奈川県下10台 埼玉県29台 千葉県6台ノ消防部隊ヲ応援要請 現勢力ヲ挙ゲテ拳闘セシメタリ（東

京大空襲戦災史）と記録され、応援に出動していた。

懸命な消防活動も、昭和 20 年 5 月 25 日の米機による焼夷弾の攻撃では、各地で全焼 127 棟、罹災者 75 世帯 381 名、死者 21 名に達する戦災を被った。

昭和 20 年（1945）8 月 15 日、太平洋戦争は荒廃した国土を残して終結し、ただちに連合軍により占領政策が始められた。

連合軍の占領政策の重要な焦点の一つであるわが国の警察制度改革のため、バレンタイン、オランダ両調査団が来日して警察と消防の分離を勧告するとともに、GHQ は「火災予防に関する覚書」を公布して消防行政の方向が打ち出された。内務省は、警察制度審議会を設置して新しい警察と消防の進路を答申した。



昭和 20 年 3 月 10 日 帝都戦災の大火に応援出場した入間川警防団